

令和 3 年 5 月 31 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H04527

研究課題名(和文) 文献史学・考古学の総合による古代西アジア「帝国」行政州支配についての歴史研究

研究課題名(英文) Historical Studies on the Rule of Provinces in the ancient Near Eastern "Empires" Synthesising Philological and Archaeological Studies

研究代表者

長谷川 修一 (HASEGAWA, Shuichi)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：70624609

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：紀元前1千年期、西アジアに世界初めての帝国が出現した。帝国は広大な範囲を支配し、異なる言語・民族の人々を支配下に置き、異なる風土を支配した。古代西アジアの帝国はそれらを行政州に分けて支配したが、本研究では、文献史学・考古学の両方の方法を用い、さらにそれらの成果を総合して、アッシリア、バビロニア、アケメネス朝ペルシアという三つの古代西アジア帝国それぞれがどのように行政州支配を進めていったのかについて研究した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、古代西アジアの帝国は異なる地域において異なる方法を用いて行政州を支配、管理していたことが明らかになった。本研究で実際に比較したのは、主として東地中海に面した地域の行政州と、現代のクルディスタン地域の行政州だが、後者においては、主として物質文化の特徴から、在地の文化を取り入れつつも、帝国の支配を確立するために支配層の文化を持ち込み、あるいは在地のエリート層が積極的に支配層の文化を取り込みつつ地域での支配を進めていったことが見て取れた。東地中海地域についても同様の様子が見られるが、同時に風土に合わせた行政州経営をしていた様子もうかがえた。

研究成果の概要(英文)：The first world empire appeared in the first millennium BCE for the first time in West Asia. Such empires ruled different peoples with different languages, stretching vast land with a variety of landscapes and climates by dividing them into administrative provinces. This study, by using both historical and archaeological approaches and synthesizing their results, how the empires in the West Asia, each of Assyria, Babylonia and the Achaemenid Persia, managed and maintained the administrative provinces.

研究分野：歴史学

キーワード：アッシリア バビロニア アケメネス朝ペルシア 行政州

1. 研究開始当初の背景

「帝国」は西アジアに史上初めて出現したと言われるが、西アジア古代史研究における「帝国」の支配構造についての研究は、主として史料不足から、古代中国・ローマ等の研究と比較し大きく立ち遅れている。しかし近年、古代西アジアの「帝国」で作成された多数の行政・経済文書を含む楔形文字粘土板史料が陸続と発見・公刊され、これら「帝国」の官僚制度や行政州行政の実態についての研究が今まさに新たな局面を迎えようとしている。また「帝国」の支配構造研究は、これまで主として文献史学的研究に依拠してきたが、経済活動や中央・地方双方向の文化的影響関係の解明に、物質文化研究の視点からの研究が有効であることも近年実証されてきている。

本研究代表者(長谷川)は研究分担者・海外研究協力者らと2006年度よりイスラエル北部に位置するテル・レヘシュで継続的に発掘調査を実施しており、これまで同遺跡丘頂上部より約30×55mの大型建築遺構が検出されている。同建物は、紀元前7世紀末～6世紀初頭の築造と見られ、その後紀元前5世紀頃まで、すなわちアッシリア帝国時代末期、バビロニア帝国時代、そしてアケメネス朝ペルシア時代前期を包含する時代に使用されたと考えられる。同地域に比類のない建築規模と出土遺物の質の高さは、同地域の支配において同建物が中心的役割を果たす建築物であったことを示しており、国際的に大いに注目を集めている。ところが、同時代の同地域に言及する文献は現存しないことから、この建築物の性格を解明し、帝国による行政州支配の実態を解明するためには、他地域の行政州支配に言及する文献史料を参考にしつつ、同様の出土資料との広範かつ緻密な比較検討を行う必要がある。

他方、本研究代表者は2016年度、科研費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)を受け、ミュンヘン大学を起点にKaren Radner氏と共同で「北イスラエル王国時代末期の実証的歴史研究」を実施した。本研究の過程で、氏が現在、メソポタミアより北方に位置するクルディスタンで実施するこれら「帝国」領域の発掘調査において、如上の建物とほぼ平行する時代の遺構・遺物が、とりわけ楔形文字史料が出土することが明らかになった。氏は従来アッシリア帝国の行政州についての研究を文献史料・考古資料双方を用いて行ってきたことから、本研究代表者がこれら「帝国」西方で調査する遺跡の成果との比較を進めることによって、「帝国」の二地域における物質文化の比較研究が可能となり、「帝国」の行政州支配の実態について研究する上で学術的に大きな可能性を秘めていることが確認されたのである。

2. 研究の目的

本研究は、考古学班による考古学的調査・研究と文献史学班による海外所蔵史料調査・研究を基軸に、文献史料・考古資料の双方の分析結果を相互補完的に用いて、これまで不明であった紀元前7～5世紀におけるアッシリア・バビロニア・アケメネス朝ペルシアという三帝国による行政州支配の実態を明らかにすることを目的とする。特に、短期間に支配が交替したこれら三帝国間の行政州経営戦略の共通点、時代的・地域的差異、変遷に注目し、土地制度・軍制・交易・物流・宗教文化・食文化の浸透など多角的視点から分析する。さらに、分析から浮かび上がった各行政州支配の実態をふまえ、その背後にある三帝国間の「帝国イデオロギー」など、歴史的・社会的・思想的背景についても考察する。

具体的には、①考古学班が、テル・レヘシュ頂上部で出土している大型建物の発掘調査から得た考古資料の分析及びそれらと他地域出土資料との比較をふまえたうえで、アッシリア・バビロニア・アケメネス朝ペルシア支配地域内における交易・物流・宗教文化・食文化の浸透等の実態を解明し、②文献史学班が各「帝国」が残した同時代文献史料(行政・経済文書、王碑文、王書簡、印章・印影)と『旧約聖書』中の「エズラ記」・「ネヘミヤ記」等の分析に基づき、行政州における土地制度・軍制等の実態を明らかにする。そして、③両班による徹底的な議論を通して①②の結果を相互補完的に用いつつ総合し、短期間に支配が交替した三帝国間の行政州経営戦略の共通点、時代的・地域的差異、変遷を解明し、さらにその背後にある三帝国それぞれの「帝国イデオロギー」など、その差異・変遷が示す歴史的・社会的・思想的背景の解明を目指す。

3. 研究の方法

本研究はイスラエル国内で考古学班が実施する考古学的調査・研究と、文献史学班による海外の図書館・文書館における所蔵史料調査・研究を基軸とする。考古学班は夏季に現地調査に当たり、文献史学班は海外の図書館で文献調査・研究に従事する。各年度末にかけて研究会を開催し、当該年度の研究成果を発表する。発掘調査成果を国際学会(ICAANE)で報告し、文献史学班の研究者による研究発表を国際学会(RAI)において行って国内外の研究者からフィードバックを得、両班の研究成果を総合するシンポジウムを国内で開催する。研究成果は適宜英文・和文で

学術論文として投稿するほか、研究終了後に欧文のモノグラフとして出版する。

4. 研究成果

- (1) 本研究では、2017年度と2019年度にイスラエルのテル・レヘシュ発掘調査を実施し、アッシリア、バビロニア、アケメネス朝ペルシアという三つの帝国支配の時代にまたがって存在していたと考えられる同遺跡頭頂部の後期鉄器時代の大型建築遺構とその出土遺物を詳細に研究した。その結果、同遺構が、紀元前7世紀末から紀元前6世紀前半のバビロニア時代に建設された可能性が極めて高いことが明らかになった。従来の研究によれば、バビロニアはアッシリアと異なり、南レヴァント地域における行政州経営に熱心に投資しなかったとされてきたが、バビロニア時代に、メソポタミアの物質文化を反映する大型の建築物が同地に建設されたことは、こうした従来の説を大きく覆す可能性を秘めたものとなる。
- (2) 研究計画通り、帝国の西部に位置するクルディスタンでの発掘調査の成果と帝国西部の南レヴァントでの調査成果を比較するため、2020年3月に立教大学で国際ワークショップを開催した。また、ワークショップではアッシリアやバビロニアの文献史料から地方行政州経営の実態についても論じられた。その結果、アッシリア帝国期において、行政州ごとに行政州経営の実態が大きく異なっていた可能性が高いこと、また、中央から行政州に派遣されたアッシリアの役人層がいた半面、在地のエリート層が積極的にアッシリアの物質文化を受容し、それを地域支配の権威付けに利用していた可能性があることも明らかになりつつある。本研究の成果は2020年9月に、ドイツの出版社から論文集として公刊され、オープンアクセスで読むことが可能である。また、テル・レヘシュの大型建築物の建造年代とその建築主体についての論考はアメリカの雑誌に論考として公刊された。そのほか、本研究の成果を論じる複数の論考が現在印刷中である。
- (3) 本研究により、この問題に海外からの関心もこれまで以上に高まり、研究代表者が2020年度に滞在していたミュンヘン大学では本研究に触発された二人の若手研究者が本研究から派生した研究課題遂行のために大型の研究費を申請するなど、国際的研究ネットワーク形成や研究の波及効果においても極めて高い成果を挙げることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Shuichi Hasegawa	4. 巻 -
2. 論文標題 'En Gev in the Iron Age II: Material Culture and Political History	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 A. Berlejung and A.M. Maeir (eds.), Research on Israel and Aram: Autonomy, Independence and Related Issues, Proceedings of the First Annual RIAB Center Conference, Leipzig, June 2016	6. 最初と最後の頁 211-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川修一	4. 巻 -
2. 論文標題 「イスラエル」の考古学 古代「イスラエル」出現をめぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 常木晃先生退職記念論文集編集委員会編『世界と日本の考古学 オリーブの林と赤い大地 』	6. 最初と最後の頁 125-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津本英利	4. 巻 -
2. 論文標題 筑波大学考古学研究所蔵の円盤状柄頭付銅柄鉄剣	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 常木晃先生退職記念論文集編集委員会編『世界と日本の考古学 オリーブの林と赤い大地 』	6. 最初と最後の頁 113-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津本英利	4. 巻 -
2. 論文標題 アナトリアとユリアヌス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学習院大学史料館編『辻邦生 永遠のアルカディアへ』	6. 最初と最後の頁 100-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三津間康幸	4. 巻 2
2. 論文標題 古代西アジア都市の景観と構造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科研費新学術領域研究「都市文明の本質」研究成果報告2019年度	6. 最初と最後の頁 67-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shuichi Hasegawa	4. 巻 17
2. 論文標題 The Relationship between Archaeology and the Hebrew Bible	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal for the Study of Biblical Literature	6. 最初と最後の頁 127-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三津間康幸	4. 巻 2019
2. 論文標題 古代メソポタミアの占星術に見る人間の生と死	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 死生学年報	6. 最初と最後の頁 119-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuyuki Mitsuma and Hisashi Hayakawa	4. 巻 2019/1
2. 論文標題 An Unusual Arc and the Eclipsed Moon with Colour of elmesu	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nouvelles Assyriologiques Breves et Utilitaires	6. 最初と最後の頁 48-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shigeo Yamada	4. 巻 -
2. 論文標題 The Transition Period	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 E. Frahm (ed.), Companion to Assyria, Malden, MA: Blackwell	6. 最初と最後の頁 108-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keiko Yamada and Shigeo Yamada	4. 巻 2
2. 論文標題 Shalmaneser V and His Era, Revisited	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 A. Baruchi-Unna et al. eds., "Now It Happened in Those Days": Studies in Biblical, Assyrian, and Other Ancient Near Eastern Historiography Presented to Mordechai Cogan on His 75th Birthday	6. 最初と最後の頁 341-391
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津本英利・小野塚拓造	4. 巻 141
2. 論文標題 聖書考古学の焦点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 61-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津本英利	4. 巻 -
2. 論文標題 金属器の故郷アナトリア	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『文明と金属器 - 普及とその過程 - 予稿集』	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原久男・津本英利・山野貴彦	4. 巻 -
2. 論文標題 カリラヤの最初期シナゴークを掘る イスラエル国テル・レヘシュ第11次発掘調査(2017年)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『平成29年度考古学が語る古代オリエント 第25回西アジア発掘調査報告会報告集』	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 春田晴郎	4. 巻 55
2. 論文標題 カノーボス星と港湾都市カノーボス、カノーボス壺	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ORIENTE	6. 最初と最後の頁 14-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑原久男・橋本英将	4. 巻 141
2. 論文標題 聖書考古学の最前線 イスラエル、エン・ゲヴ遺跡とレヘシュ遺跡	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川修一・宮崎修二	4. 巻 141
2. 論文標題 聖書考古学の現在	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz	4. 巻 130
2. 論文標題 Tel Rekhesh 2015: Preliminary Report	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Hadashot Arkheologiyot	6. 最初と最後の頁 Web出版
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shuichi Hasegawa	4. 巻 2
2. 論文標題 David and Goliath: Towards a Dialogue between Archaeology and Biblical Studies	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 A. Baruchi-Unna et al. eds., "Now It Happened in Those Days": Studies in Biblical, Assyrian, and Other Ancient Near Eastern Historiography Presented to Mordechai Cogan on His 75th Birthday	6. 最初と最後の頁 607-622
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichi Hasegawa	4. 巻 129
2. 論文標題 Josiah's Death: Its Reception History as Reflected in the Books of Kings and Chronicles	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Zeitschrift fuer die alttestamentliche Wissenschaft	6. 最初と最後の頁 522-535
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/zaw-2017-4006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shuichi Hasegawa	4. 巻 15
2. 論文標題 Kahah A River; Kahah A Town	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Encyclopedia of the Bible and Its Reception	6. 最初と最後の頁 20-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/abr.kahah	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Shuichi Hasegawa
2. 発表標題 Canaanites, Phoenicians and Israelites Cultural Dynamics in the Eastern Mediterranean during the Early Iron Age Looking through a Terracotta Mask from Tel Rehesh
3. 学会等名 Society of Biblical Literature International Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津本英利
2. 発表標題 ヒッタイト帝国の興亡と紀元前1200年前後の気候変動
3. 学会等名 日本西アジア考古学会公開シンポジウム『気候変動と古代西アジア - 古気候から探る文化・文明の興亡』(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasuyuki Mitsuma
2. 発表標題 Citadel of Babylon under Greco-Macedonian and Iranian Rulers
3. 学会等名 科研費新学術領域研究「都市文明の本質」C01-計画研究05 第13回研究会 Sasanian Cities
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三津間康幸
2. 発表標題 古代西アジア都市の景観と構造
3. 学会等名 科研費新学術領域研究「都市文明の本質」第3回領域全体研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三津間康幸
2. 発表標題 セレウコス朝およびアルシャク朝時代バビロンの都市構造：『バビロン天文日誌』の記述を中心に
3. 学会等名 科研費新学術領域研究「都市文明の本質」 A01-計画研究01・A02-計画研究02 第1回合同研究会 「都市文明の本質を探る：西アジアとその周縁」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三津間康幸
2. 発表標題 セレウコス朝・アルシャク朝時代バビロンの景観と社会
3. 学会等名 科研費新学術領域研究「都市文明の本質」A02-計画研究02 第4回研究会「古代西アジア都市の景観と社会」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shuichi Hasegawa, Hidemasa Hashimoto, Hidetoshi Tsumoto and Takuzo Onozuka
2. 発表標題 The Excavations at Tel Rekhesh, Israel: The Results of 2013-2017 Seasons
3. 学会等名 The 11th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East in Munich (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川修一
2. 発表標題 古代オリエントにおける近年の発見と旧約聖書
3. 学会等名 日本旧約学会秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shuichi Hasegawa
2. 発表標題 Between Biblical Research, Archaeology, and History
3. 学会等名 Society of Biblical Literature, Annual Meeting in Denver (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 ネブカドネザルとバビロン
3. 学会等名 聖書考古学資料館特別講演会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 古バビロニア時代書簡史料にみるsal(a)humと都市の景観
3. 学会等名 第60回シュメール研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 テル・タバン出土イツィ・スムアピ書簡に見る前18世紀後半のタバトゥム
3. 学会等名 第59回日本オリエント学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shigeo Yamada
2. 発表標題 Excavations at Yasin Tepe and Its Historical Context
3. 学会等名 Workshop: Between the Zagros and Mesopotamia. Archaeology of the Diyala Valley in Iraq (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeo Yamada
2. 発表標題 Names of Walls, Gates and Palatial Structures in Assyrian Royal Cities: Contents, Styles and Ideology
3. 学会等名 Workshop: Ancient Near Eastern Royal Ideology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 津本英利
2. 発表標題 金属器の故郷アナトリア
3. 学会等名 第10回東アジア古代鉄文化研究センター国際学術シンポジウム『文明と金属器 - 普及とその過程 - 』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桑原久男・津本英利・山野貴彦
2. 発表標題 ガリラヤの最初期シナゴークを掘る イスラエル国テル・レヘシュ第11次発掘調査 (2017年)
3. 学会等名 平成29年度考古学が語る古代オリエント 第25回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 春田晴郎
2. 発表標題 サーサーン朝以前のペルシス地方君侯の称号：「こぶ牛の銀皿」銘文の再考
3. 学会等名 第24回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長谷川修一
2. 発表標題 聖書考古学の魅力：旧約聖書の遺跡を掘る
3. 学会等名 第2回西アジア考古学会トップランナーズセミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Shuichi Hasegawa, Christoph Levin and Karen Radner (eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 423
3. 書名 The Last Days of the Kingdom of Israel	

1. 著者名 長谷川修一・小澤実編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 261
3. 書名 歴史学者と読む高校世界史 教科書記述の舞台裏	

1. 著者名 長谷川修一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 238
3. 書名 謎解き聖書物語	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>文献史学・考古学の総合による古代西アジア「帝国」行政州支配についての歴史研究 https://www2.rikkyo.ac.jp/web/empires/ Tel Rekhes Project Website http://rekhes.com/rekhes/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三津間 康幸 (Mitsuma Yasuyuki) (00568280)	筑波大学・人文社会系・助教 (12102)	
研究分担者	津本 英利 (Tsumoto Hidetoshi) (40553045)	(財)古代オリエント博物館・研究部・研究員 (72601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------